

大学入試改革に備え脱暗記

私立中学の入試に思考力や英語力を問う新しいタイプの出題が広がっている。大学入試改革を2020年度に控え、中学も暗記中心の入試からの脱却を目指す。授業でも自ら考え、表現する力を養う取り組みが進んできた。

(小田倉陽平)

最前線

東京都千代田区の和洋九段女子中学・高校で3日、来春入試の体験会などを行う「新入試体験 私立中コラボフェスタ」が開かれた。フェスタには首都圏の私立中25校が参加。多くの親子連れが集まった。

「あいさつを交わしている人の写真を見て、思ったことを書いてください」

神田女学園中(千代田区)は、入試体験会でこんな例題を出した。同中は来春、1枚の写真を見て自分の考えを論述する入試を導入する。参加した小学6年の女子児童は「難しい」と言いながら問題に挑戦した。田中聖秀教頭(54)は「偏差値では測れない子どもの可能性を発見したい」と新入試の意義を語る。フェスタを主催した「首都圏模試センター」(同)によると、思考力などを問う入試を行う首都圏の私立中は、14年度入試は38校だったが、来春は140校を超え、全体の

中学入試 思考力重視へ

◆東京都内の私立中学が来春実施する入試の例

順天(北区)	【多面的入試】小学校で頑張った活動や学習を面接でアピール。2科目の基礎学力と合わせて評価する
品川女子学院(品川区)	【算数1教科入試】算数1科目のみで評価する
成立学園(北区)	【ナショナルジオ入試】雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」に掲載された2枚の写真を見て、感じることやその奥に潜む課題などを考察し、論述する
共立女子(千代田区)	【インタラクティブ入試】算数のほか、ゲームや会話を通じて英語の理解力やコミュニケーション能力を測る

イラストの示す意味を考える授業で、意見を述べ合う1年生の生徒ら(1日、東京都渋谷区の富士見丘中で)

は今年度、思考力や創造力を培う授業方法を研究する教員チームを設置した。例えばは数学では生徒が独自の連立方程式を作るなど、柔軟な発想を養う授業を実践中だ。

英語にも力

英語への関心も高い。首都圏模試センターによると、来春入試で英語を選択できる首都圏の中学校は110校以上と予想されている。

目白研心中(新宿区)は来春英語スピーチ入試を行う。「夢」などをテーマに1500

5割に達する見通しだ。20年度には大学入試センター試験に代わって「大学入学共通テスト」が始まり、思考力や判断力、表現力を問う入試に変わる。首都圏模試センターの北一成・教務情報部長(57)は「思考力などを重視する中学入試は今後さらに増えるだろう」と話す。

富士見丘中(渋谷区)は来春、パソコンを使って思考力を問う入試を導入する。同中は1年でグループ討論や発表を行い、多様な意見や価値観を学ぶ。白鷺訓彦教頭(56)は「世界で活躍できるリーダーを育成したい」と強調する。明法中(東京都東村山市)



300語の英語を話し、面接官の質問にも答える。松下秀房校長(68)は「海外大学への進学など世界に羽ばたく子を育てたい」と意気込む。

こうした入試が増える背景には、少子化で私立中学の入学者獲得競争が激化していることもある。大手塾SAPIX教育事業本部の広野雅明本部長(50)は「従来型の入試から転換を図ることで、塾通いをしてこなかった受験生を掘り起こす狙いもある」と分析する。

中学入試に詳しい「森上教育研究所」の森上展安代表(64)は、多様な入試が広がり、受験生は自分の能力や個性に合った学校をより選べるようになった。新しい時代に向けて、挑戦しない学校は受験生や保護者に飽きられ、生き残りは難しいだろう」と指摘している。